

令和3年度 調布市立第二小学校 学校評価報告書（学校長 加藤 正孝）

学校の教育目標	
「かがやけ二小の子」 ・かながえる子 ・がんばる子 ・やさしい子（重点） ・けんこうな子	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
I 児童	1 自分の考えを広げ深める, 主体性のある児童。 2 まわりにやさしく, 自分も友達も大切にできる児童。 3 運動に親しみ, 健康と安全に努めることのできる児童。 4 何事にも一生懸命にがんばる児童。
II 教職員	1 不易, 流行を踏まえ, 授業力を付け, 児童の学力向上を図る。 2 教育公務員としての自覚を持ち, サービスの厳正に努める。 3 命の大切さや人権尊重を理解し, 一人一人の児童を大切に教育する。 4 前向きで, 学び合い, 組織人としても自覚を持つ。
III 保護者・地域・学校	1 児童に基本的な生活習慣を身に付けさせ, 家庭と学校が協力し児童の成長を見守っていく。 2 安心・安全な地域環境や児童の教育活動の充実のために学校と協力して支援していく。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>						
	1 豊かな心(徳)		2 確かな学力(知)		3 健やかな体(体)	
	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
自己評価	① ・3回の研究授業を実施した。児童がグループに分かれて協力して自分たちで進める形を大事に進めている。 ・特に2学期からは力を入れている。縦割りスペシャルも実施した。(1, 2時間目) ・挨拶は日常的に自分たちからできるようになっている。毎朝担任は教室で、専科。職員は昇降口で迎えている。11月のふれあい月間では「いじめ」ゼロの運動を実施。いじめアンケートを全児童に実施。担任と委員会で対応した。いじめ対策委員会は毎月実施。いじめ案件の時は随時実施した。(2学期は定例の他2回実施。組織的な対応をしている。) SNSの学校ルールと家庭ルールを再度改善して授業で実施した。また、都と市のSCによる4年生の全員面接を実施した。特に優しい言葉遣いに視点を当て、「代表委員会主催のキャラクターコンクールの実施など行った。」 ・感染症の関係で、代表委員会の取り組みやPTAの協力はできなかった。しかし、日ごろから挨拶を自分たちからできている児童の数が増加した。	B	① ・静かに聞く, 相手を見て聞く, を基本に相手の考えを読み取るように授業を進めた。感染症の関係で教員との対話が多くなったが, 2学期以降徐々に, 児童の話し合いにも取り入れ, 11月以降はさらにグループ活動を増やした。特に体育科では「～自分も友達も大切にする～主体的協働的な深い学びの実現」に向けて3回、講師を招き研究授業・協議を実施。 ・毎月, 学年主任会を実施し, 教務主幹に運営させ, 学年主任との日ごろからの情報共有に努めた。学力も単元の確認テストや都や国の調査等で児童の学力の把握に努めている。 ・ICTの活用は日常的になっている。タブレットを使った授業も多く, プログラミング教育も進んでいる。2学期当初や3学期にもリモートの授業を実施した。情報リテラシーも学活や授業で進めている。 ・時間割上難しい部分もある。5年で英語と社会で実施。他の教科でも部分的に5, 6年で実施している。	A	① ・野球教室や縄跳び教室, サッカー, 走り方教室等実施し, 児童のスポーツに対する意欲や関心を高めることができたと考える。 ・コーディネーショントレーニングは体育の授業の準備運動や各運動行事に取り入れることができています。 ・体育の授業ではより主体的に授業に取り組めるように, 教員の研修を年間を通して行った。東京都の体育研究部の協力を仰ぎ, 先端の授業を各教員が学び, 授業を改善して, 児童が多く時間を意欲的に主体的に運動に取り組んでいる。	B
	② ・特に毎週木曜日の夕会を新たに設け, 週3回各学年の情報共有を全体で行っている。 ・生活指導は学年で複数の教員で対応し, 学年がまたぐ場合や必要に応じ生活指導主幹が加わって指導している。報告は学年から主幹にそして管理職に報告される。対応も管理職が必要により指示する。 ・低学年のかにやま遠足を実施。2年が1年にプログラミングを教える。中高では運動会や委員会で児童が協力して取り組む。教員の協力は生活指導や授業研究に重点をおいて一緒に取り組んだ。 ・ユニバーサルデザインで教室の前には掲示は最小限、ミニホワイトボードの活用、1日の予定を伝え、前もって1日の流れがわかるようにする。学習や生活の支援員を2名追加。なないろ教室の指導も充実している。校内委員会は月1回の定例と2学期は4回ケース会議を開催	A	② ・基礎基本の復習の課題が中心になった。 ・未来シードや学習アプリの活用や課題などの連絡にタブレットを効果的に活用している。 ・家庭学習の分量も個人差があり, 難しいところもあるが, 改善しながら進めていく。 ・家庭の協力でもあり学習習慣は着いてきている。同時に, 学力にも都や文科省の学力調査で見る限り伸長している。 ・今後, リモートによる授業などさらに充実させていきたい。	A	② ・昼休みは1, 2, 3年と4, 5, 6年の遊びの時間を別に設定して児童の遊びの場を工夫している。当初は感染症の対応が目的だったが, 加えて広々と使える思いっきり学年に応じて運動できる利点もあることで, 教員の監督も2重になるが2学期以降も継続している。 ・特に芝生を活用した競技は行ってないが, 足首の安全や雨の後でも運動できること, はだしの運動など児童は楽しく運動している。縦割り遊びや縄跳びオリンピックなど意欲的に取り組むことができた。 ・校庭横の運動器具類が古く壊れてきていることやコンクリートのペイントの対応が必要である。	B

	した。なないろ教室の教員やSCと担任との情報共有や連携は日常的になっている。					
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	① ・3月末から4月初めに配布し説明を行った。なお、推進テーマである「自分も友達も大切にする」ことは継続して挨拶の取り組みやふれあい月間の取り組みや道徳の授業で継続し実施している。(体育科の研究テーマ、道徳地区公開講座の主題、等) ・12月にタブレットで実施し、結果を2月の学校だよりで報告した。	B	① ・学校評議員会、評価委員会の評価は厳しい評価もありますが、おおむね、良い評価をいただいた。 ・ICTの活用やリモート授業の実践、タブレットの活用も含め、授業の工夫は改善できていると考える。主体性は意欲的に取り組む工夫で91%であり、達成はできていると考える。 ・授業の工夫：A+B=91% ・個に応じた指導：A+B=80% ・意欲的に取り組む工夫：A+B=91%	A	① ・外部より講師を招きより専門的な立場から授業を計画通り実施できた。児童の授業後の振り返りからほとんどの児童が意欲的に取り組めたことや次年度も学びたいという意見が多い。学校評価委員の意見も肯定的であり今後も継続していく。	A
	② ・実施し成果を出している。(学年の協力や他学年の情報共有、組織で対応すること)	A	② 学校評価 ・授業の工夫：A+B=91% ・個に応じた指導：A+B=80% ・意欲的に取り組む工夫：A+B=91% 授業参観や内容の説明が十分でなかった。特に個に応じた指導では算数の習熟度の内容の工夫や低学年のチームティーチングの指導方法の工夫をさらに改善していくことが必要であると考ええる。	B	② ・体力向上：A+B=88%と目標値に近い。引き続き取り組んでいく。 ・学校評価委員の評価も肯定的であり継続の希望も高い。	B
学校関係者評価	・縦割りの活動や日々の挨拶など、感染症対策を講じながら、子どもたちが自分で考え、心で感じて思いやりの心を身に着けるような取り組みを行っている。いじめについても引き続き根絶に向けて対策していただき、二小の温かな校風を守って頂きたい。 ・生活指導では、複数の教員が関わっているとのことですが、教育現場ではチームワークとチームプレイが大切であると思います。是非各教員はそこを意識して対応していただきたい。		・ICTの活用については発展途上であるように感じる。児童の学び方に差が出ることがないよう授業や課題の内容等保護者の皆様への説明も同時に行って頂きたい。 ・先生方も試行錯誤しながら日々の授業を進めていると感じた。少人数教室など、子どもたちのペースに寄り添った取り組みは引き続き行って頂きたい。 ・現状の社会情勢により、リモートでの対応もしばしばあり、学力について懸念していましたが、それでも学力が高まっているところは評価できると思います。		・感染症対策をしながら、できることは何かをとても良く考えてくださっていると思った。中でも昼休みを2つに分ける取り組みは、子どもたちの一人一人の距離を取れるのと同時に広々と遊ぶことができるということで、引き続き行って頂きたい取り組みである。外部講師についても、子どもたちにとっては貴重な体験であるため、続けて頂きたい。 ・体力向上にはやはり遊びの時間確保は不可欠であると思います。昼の遊びの時間はできる限り継続していくべきと思います。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>						
	4		5		6	
	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
自己評価	① ・オリンピック・パラリンピックの調べ学習への取り組みを全学年実施した。 ・伝統文化への取り組みを学年ごとに実施。落語や琴、沖縄舞踊、歌舞伎など外部講師を招いたり、リモートで実施した。 ・弦楽三重奏やプロの音楽家の演奏会を音楽の授業で取り組んだ。	A	① ・組織的な動きの充実を図れた。校内委員会がなないろ教室やスクールカウンセラー、教育相談所等と連携し、月1回の定例会議やケース会議を随時実施し、具体的な方策を立て実施した。スクールサポーターや支援員、学校地域支援本部のコーディネーターとの協力で、組織で対応した。同時に、毎木曜日の職員の打ち合わせで教職員全体で情報の共有と実施内容・方法を確認し行動できた。	A	① SDGSとの関連も含め、環境教育の充実を図ることを目的に進めてきたが、授業や児童の活動には至っていない。しかし、野草は着実に育てっており、今後、教科での活用や児童や地域のボランティアの活動で維持していきたい。	C
	② ・第3学年～第6学年で総合的な学習の時間で取り組んだ。実践資料を整理しさらに系統的な学習体系を作っていく。	A	② 安心安全の面でけがの防止と感染症の対応を中心に整備した。教室だけでなく校舎内の掲示やルールも再度検討し徹底した。校舎外の安全環境も、自動車の出入りの管理や草木の管理、遊びの教員の増員、登下校中の安全管理も集団下校や警察による交通の取り締まり等徹底している。	A	② 10月より地域支援本部コーディネーターをお願いでき、進めている。3名のコーディネーターで現在運営し、児童の学習補助の支援を中心に進んでいる。今後、地域人材の協力や地域資源の活用を図っていきたい。	C
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
	① ・児童の取組の作品は廊下に掲示し学習の共有を図った。振り返りも肯定的な感想がほとんどであった。	A	① 情報共有と具体的な対応策の確認・改善を行った。特別支援は組織で児童に対応することを何度も夕会等で確認した。なないろ教室と学級での指導の連続性については、担任との児童の	A	① 野草は多年草で根が十分に張り剪定を教員と用務で行った。植え替えの必要はなくなっている。児童の委員会は園芸植物を継続的に育て、校舎外回りにも花を植えている。	B

	<p>② 児童の振り返りでは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ選手による運動やスポーツの指導に興味関心が高く、意欲的に楽しく取り組んでいた。 ・伝統文化への体験や学習についても知識や体験して興味関心も深まっている。 ・オリンピック・パラリンピックのレガシーの継続した取組は次年度も本校の特色として実施する。 	A	<p>相互の情報共有が充実してきている。</p> <p>②児童を教職員全体で見守っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会、いじめ対策委員会は毎月実施し、教職員全体の打ち合わせを増やし（毎週）、全体で情報の共有と進行状況を確認した。 ・学級の問題は学年の教員全員で指導 ・生活指導部と協力（情報の共有と具体的な指導）し行うことを徹底した。 	A	<p>②本校は本年度 1 年目で、現在コーディネーターと副校長と一緒に進めている。まだ、仕事内容は少ないが、無理をせず 1 つの形を作っていきたい。コーディネーター3人体制でおこなっている。</p>	C
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いて、多様な文化に直接触れることのできる機会を設けている。 ・日常とは違った新しいものに触れるという体験で刺激を受け学ぶことは、とても大切だと思う。今後も引き続き行って頂きたい。 ・外部講師の活用は、子どもの学びを深めるためにはとても有効であると思います。これからは様々なジャンルの外部講師をお招きできると良いと思います。 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内の環境を整え、どの児童も安心して安全に過ごせる場所として、努力している様子が伺える。（教員の夕会）ミーティングの時間を多く設けているということで、子どもたちの様子を職員全体で共有しようとされていることが伝わる。今後も、たくさんの目で温かく見守って頂きたい。 ・安全管理やけがの防止には、日ごろ発生する「ヒヤリハット」の情報共有が大切であると思います。事案発生の場合には、逐一教職員間で共有していくべきだと思います。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域イベントも軒並み中止となり、地域と子どもたちの関わりが少なくなってきた。今後は地域支援本部を中心に、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていきたい。 ・地域本部コーディネーターについては、今年度の取り組みを振り返り、反省を生かして来年度無理なく運営できるように計画立てていくことが大切だと思います。 	

人材育成・組織運営	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・毎金曜日の主幹会の実施や毎月の主幹による学年主任会の運営など年間を通して実施し、組織運営の機能を高めることができた。また、主幹および学年主任の人材育成にもなった。分掌や学年も全体で（組織で）児童を守り育てていく姿勢・体制が高まった。 ・児童の指導が組織や市の職員との連携により成果が出ており、児童に還元されていることで、より組織対応の意識が教職員に根付いてきた。また、2学期3学期のリモートでの授業の工夫や実施に際しての組織的な取り組みは益が多かった。 ・研究部の「体育科」での校内研究は、若手育成やベテラン教員にとっても授業改善に役立ち、全体で児童の主体性や教員の授業力向上を図ることができた。また、若手の授業や学級経営の研修も別途行えたことは、全体で児童を育てていく体制が充実してきたということだと考える。 ・PTA の各家庭での協力や、地域の皆様の支えがあった組織運営である。それがなければ、良い結果は出ない。引き続き PTA・地域との協力を強めていく。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・組織として、縦・横の伝達フローが整っているように感じた。 ・GIGA スクール構想で、学校の（学習）在り方の変革期であるが、先生方も尽力され、スキルアップを目指されていると感じた。今後も、子どもたちのために連携を深めて頂きたい。 ・課題解決の為に教職員の縦と横の連携は不可欠であると思います。定期的な管理職同士の情報の共有やそれに対する意見交換などは引き続き積極的に行われることを願います。また、日ごろから教職員間で声を掛け合うことも意識し、運営をチームプレイで行う意識を持つことが大事であると考えます。

中期的な経営目標の達成状況
<p>① 豊かな心と社会性を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年・2年度人権尊重教育推進校の実績を継承し、研究主題の「自分も友達も大切に作る、心のやさしい児童の育成」を活かし、校内研究や道徳授業地区公開講座等の充実を図った。 ・例年の第5学年のスクールカウンセラーの全員面接を、第4学年でも実施し、児童の集団での人間関係や心の発達に配慮し、豊かな心の育成を図った。 ・いじめ対策委員会の毎月の定例会と放課後の教職員の打ち合わせを1日増やし、児童の情報共有と組織による対応を図った。 ・いじめに対する児童会の活動として、「優しい言葉づかい」をテーマにキャラクター募集と各クラスの話し合い活動を実施した。 <p>② 確かな学力を身に付ける教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底は、定期的な評価テストなどの取り組みを継続して行っている。 <p>③ GIGA スクール構想の実現と ICT を活用した授業等のモデル化を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートによる授業の実施、リモート授業の組織担当教員の配置、校内研修の実施などタブレットの活用は進んでいる。 ・教材や教材ソフトの活用の充実をさらに図っていく。 <p>④ 心と体の健康・安全教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育の推進や縦割り活動の充実を継続して行っている。安全教育については日常の生活のルール（校内、校庭）の徹底や安全管理体制の確認を毎月定例化し実施している。 <p>⑤ 国際理解教育・SDGS（環境の保全）を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGS については第3学年～第6学年において総合的な学習の時間に全学年取り組んでいる。 ・国際理解教育については、オリンピック・パラリンピックの学習を全学年で行った。また日本の伝統文化やスポーツ活動については外部講師による授業を多く実施している。 <p>⑥ 特別支援、特別支援教育を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会を中心になない教室やスクールカウンセラー、教育相談所と連携し、特別支援を進めている。また毎月の定例会と必要に応じ

た随時の会議を設定し情報の共有や具体的な対策の対応など組織的に対応と経過観察を行っている。

・なないろ担当教員と学級担任との日常的な情報共有と協力、スクールカウンセラーの活用が充実している。

保護者・地域との協力体制を強める。

・保護者は学校に大変協力的であり児童の育成上の情報の共有をし、家庭学習の支援や学校生活の充実のために協力的である。しかし、コロナ禍の中で、読み聞かせや挨拶運動等の行事も縮小・中止になることが多かった。今後はPTA役員や実行委員会への協力をお願いしながら、協力体制を強めていきたい。

・調布市健全育成推進第二地区委員会、学校開放運営委員会、地域自治会、おやじの会等との連携もコロナ禍で中止になる事業が多かった。次年度に向け再度連携を確認していきたい。

次年度の重点課題

1. 授業の充実（新学習指導要領の趣旨に対応した授業の充実と学力・体力向上）
2. 幼保および中学との連携（連続した流れ、継続した指導体制）
3. 学校地域協働本部の体制と内容の拡大・整備およびコミュニティ・スクール構想の準備